



English Café@Showa

昭和キャンパスにおける特別プログラム



実施日：月曜日、木曜日12:15～12:45

実施場所：群馬大学昭和キャンパス 共用棟7階国際推進室、共用棟5階リフレッシュルーム

発表者：医学部保健学科理学療法専攻3年 谷川真穂

概要

留学生や外部からの先生方と日本人学生の交流の場として、2017年度より大学院保健学研究科の齋藤貴之先生と学生が主体となって運営しているプログラムである。普段英語を用いる機会の少ない医学部生がのびのびと英会話を楽しむことでスキルアップを図ったり、留学経験のある学生の体験談を聞くことができたりと、情報交換の場にもなっている。

2019年度のEnglish Caféは、より多くの参加者を集めるべく前期は火曜日と金曜日、後期は月曜日と金曜日に開催した。

外部の講師として、Deanna Clause 先生、本学大学院医学系研究科・保健学研究科留学生のFacilitatorとして10人ほどにご協力いただいた。

活動内容

2019年度のEnglish Caféでは、Basic / Intermediate / Advanced の3つのグループ分けをした。Basicでは簡単なフリートークやゲーム、Intermediateではより高度なフリートークを企画した。Advancedでは高度な医療英語を用いたフリートークがメインで、初心者から中級者、上級者まで参加しやすい環境が整っている(図1・2)。

前期の火曜日と後期の月曜日にDeanna先生にお越しいただき、テーマを決めてフリートークをしたり、簡単なゲームを行った。留学生のFacilitatorからは、母国の話が聞けたりと、とても興味深いものであった。フリートークのテーマは、季節ごとのイベントに関することや、趣味・好きなことについてなど、幅広く設定した。お昼休み中ということもあり、お弁当を広げながら話をしたり、お菓子をつまんだり、カジュアルな空間づくりを心がけた。初めての参加者も気軽に楽しめるようにするための工夫であった。参加者は10～15人ほどで、人数によって小さなグループに分けたりと、全員がコミュニケーションできるようにした。



図1 Basic, Intermediate Class の様子



図2 Advanced class の様子

これまでのイベント

● Halloween Party (図3)

留学生、学部生、院生など自由に参加してもらい、英会話やゲームを楽しんだ。開催場所は昭和キャンパス内の食堂で、授業後に手伝えるメンバーは飾り付けや食べ物の準備などを行った。2019年度は医学部アカペラサークルのボイスクリームからBorderlessというグループを迎えてコンサートを行った。普段話さない留学生たちと交流でき、とても有意義な時間であった。



図3 Halloween Partyにて

● コロンビアのSabana大学の発表会 (図4)

コロンビアからの留学生2人が自身の母国や大学についてプレゼンテーションを行った。多くの留学生や先生方、日本人学生が参加し賑わった。日本との違いが学べたり、海外への興味がより深まる内容でとても充実した発表会だった。



図4 Sabana大学の発表会

これからのEnglish Café

新型コロナウイルスの影響で、学内でのEnglish Café開催が延期されることを考慮し、新たなEnglish Caféを展開することを決定した。また、英語力アップに繋げる新たなコンテンツを加えた。

● Online English Caféの開催(図5)

Zoomを用いたオンライン授業が計画され、English Caféの開催も計画している。自宅でも留学生と交流することができ、とても魅力的である。

● TED talkを意識したプレゼンテーション

各自で自由なテーマでプレゼンを行い、英語で話す力をアップさせることが狙いである。発表を通して自信が付き、より向上心が増すことも期待できる。

● 医学英語のEラーニングの活用

ALCの医学英語のアカウントを購入し、希望者は使用することが可能となった。より専門的な英語を学ぶことができ、医療現場でのコミュニケーション力が大幅にアップすることが期待できる。



図5 Zoomでの会議の様子

「自由な場所で、自由な雰囲気
誰でも楽しめる」
そんなEnglish Caféを目指して
いきたい。



まとめ

私はEnglish Caféに参加することで、自身の英語力の拙さや英語でコミュニケーションすることの大切さを改めて感じる事ができた。2020年度は様々な新しいイベントを行い、より多くの人に楽しんでもらえるEnglish Caféにしていきたい。医学部生が留学生との交流を通して、グローバルな視野を持つことの大切さを知ってもらえるよう活動に邁進していきたい。

謝辞

齋藤先生や同研究科の川島智幸先生をはじめ、講師を務めてくださったDeanna先生、Facilitatorを務めてくださった留学生の皆様、また昭和キャンパスの事務の方々、English Café@Showaの運営にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

チェックしてみよう！



Instagram



Twitter



ホームページ



facebook

English caféの活動や、
計画についてアップして
いる。ぜひ、チェックを！



ベトナム国際インターンシップ

群馬大学国際センター企画海外研修

実施日: 2019年8月12日～2019年8月27日

実施場所: E Hospital、Vinmec International Hospital ほか (ベトナム・ハノイ)

発表者: 医学部 保健学科 看護学専攻 2年 星野有香



1, 概要

群馬大学生(全学部)計15名は、8日間のインターンでベトナム・ハノイへ向かった。ホストは、FPT 大学(ベトナム最大のICT会社FPTグループが設立、ソフトウェア開発・情報システムなどを学べる、関西学院大学、北海道情報大学など日本国内をはじめ様々な大学の学生を受け入れている)であった。宿泊先は、New Amely hotel (E hospitalから4.5km)で2人/1部屋であった。

2, 活動内容

(1) 病棟見学(図1)

病棟見学を担当した医師の所属する**消化器外科**を中心に検査室から手術室、病棟などE Hospital内の医療施設を見学した。

(2) 身体診察(聴診、触診等)

他の医療実習生や看護師にベトナム語に通訳してもらいながらだったが、実際に患者さんの**身体診察**も行わせていただくことができた。**聴診**や**打診**などの方法を用いて基本的な健康観察を行った。

(3) 内視鏡検査の見学 / ヘルニア手術の見学(消化器外科)(図2)

内視鏡検査も**手術**も見学するのは初めてで、最初は内視鏡で何を見ているのか、何の手術なのかも分らなかったが、一緒に研修に参加した群馬大学の医学科生に説明してもらってようやく理解できた。手術室の機材はかなり多く、設備が整っている印象であった。

(4) 看護師のシャドウイング(泌尿器科、小児科)(図3)

もともと、希望する科に配属してくれるという話は聞いていたが、私の場合は医師ではなく**看護師についてインターンを行いたい**と考えていたので、FPT大学の学生バディ、他の群馬大学生に最初にお世話になっていた消化器外科の看護師長へ紹介してもらった。その後、看護部長に紹介していただき、希望する病棟の看護部の方へお世話になることになった。その際に英語を話せる看護師をシャドウイングの担当に付けていただいたり、看護師長はじめ病棟看護師、FPT大学の学生バディや先輩方など多くの方にお世話になってシャドウイングを実施することができた。

シャドウイングとは・・・担当看護師について病棟を周り、看護師の日常業務を見学したり、補助することで学ぶ実習形態



図3 看護師による投薬管理の様子



図4 熱帯病部

(5) デング熱患者の問診(熱帯病部)(図4)

日本では、**デング熱**をはじめ熱帯で見られる感染症は通常ないため**熱帯病部**というものがあること自体、興味深かった。医師への質問の際、ベトナム国内での感染症の罹患についての話になり、熱帯病部を見せていただくことになった。ベトナムにおいてデング熱というのはあまり珍しくない病気らしく、蚊帳が張られているベッドもあるものの、そこまで隔離することはなく一般病棟同様に入院生活を送っていた。

(6) 病院訪問

Vinmec International Hospitalはじめ、**Hanoi French Hospital**などの私立病院で病院見学を行った。こちらはもともとプログラムにはなかったが、群馬大学生が強く希望したことでこの病院見学が実現した。Vinmec International Hospitalはビングループという不動産・リゾート開発を中心とした大企業の設立である。Hanoi French Hospitalはフランス資本により2000年に設立された。どちらの病院もベトナム人の富裕層、外国人向けに設立されており、病院施設としては国際基準をうたっている。

3, E hospitalでの研修において気づいたことと考察

・一つのベッドに二人の患者さん

→ベトナムでは人口増加に伴い、病院が不足している。2019年現在のベトナム人口は約9621万人、2018年**人口1000人あたり3.0病床**、対して日本は2017年13.1病床である。日本の総病床数には精神病床が含まれているが、**OECD平均の4.9床**からしてもベトナムの人口に対するベッド数は少ない。インターンシップ先のE hospitalでは、当時病棟の改装、新設をおこなっていたため特に病室が足りていない様子だった。

・入院生活において大抵のことは患者家族が世話をしている

→公立病院のベッドの稼働率90-120%(2016年)からしても看護師の数は足りていないため、基本的に**患者家族が着替えや食事などの世話をしている**。

・仕切りのカーテン等がない

→日本のような**ベッド間を仕切るカーテンはなく**、ベッド同士が1mも間のない部屋もあった。患者さん同士がお互いに話をしている、医療者からしてもナースコールが一般病床にはない分、患者さんの様子が分りやすくなっていた。

4, 総括・謝辞

ともに参加した群馬大学生や現地学生(FPT大学)のサポートもあり、見学や実習にもなんとかついていくことができ、看護部へのインタビューやシャドウイングを行うことができた。一週目は、案内されるままに病棟内を見学したり、医師に質問したりするのみだったが、二週目からは自分の意見を伝えることにより、より充実した実習にすることができた。最初は、病院内で自由に動き回り自ら医療関係者や患者さんにコンタクトを取りに行くスタイルに困惑したが、次第に慣れてくるとベトナム語しか話せない患者さんや看護師にもなんとかコンタクトをとろうとグーグル翻訳を用いたり、小児科では折り紙で遊ぶなどして自分なりに工夫することができた。

現地では医療関係者でも英語を話せる人は少なく、特に看護師はそうであったので意思疎通を図ることが難しい場面もあった。もっと積極的に自分の意見を伝えたり、質問をするために医療用語や病気・薬に関する知識があった方が充実した実習にすることができたかもしれない。

今後はこの経験を生かして看護の勉強をしたり、海外の医療事情についても積極的に調べていきたい。インターンシップに関して、比較するような経験をしていないため、日本国内・海外においてもインターンシップをはじめとする様々な経験をしていきたい。

忙しい中でも対応してくださった病院関係者の方々、実習に協力してくださった患者さん、FPT大学のバディ、先生方には心から感謝している。

表1 インターン業務分類、研修先

学生	インターン業務分野	インターン研修先
社会情報学部2名	Business/Business&education	Lotus Quality Assurance
理工学部2名		FPT University Global
医学部6名(医学科4名、保健学科2名)	Medical	E Hospital
理工学部5名	Engineering&IT	FPT Technology Innovation Department
		FPT Software

表2 インターンシップ日程

日時	行程
8/14	病院見学(消化器外科)
8/15、16	病院見学(熱帯病部)、ベトナムの医療事情に関して質問
8/19	Vinmec International Hospitalなど他病院訪問
8/20～23	主に看護師についてシャドウイング(泌尿器科、小児科)



図1 病院内の様子



図2 手術見学

GFL生から見たインターナショナルキャンプ

国際交流

実施日: 令和1年10月26-27日
 実施場所: 群馬県草津町, 中之条町
 発表者: 医学部保健学科看護学専攻2年 鈴木優依



1.概要

インターナショナルキャンプとは、群馬大学国際センターとLe Pontの共同企画による、留学生と日本人が観光やグループワークなどを通して交流を深めるものである。今回は留学生と日本人がグループを組み、草津と吾妻の自然と食を楽しみながら、1泊2日の四万温泉の観光モデルツアー作りに取り組んだ。

日時: 2019年10月26(土)、27(日)

参加者: 日本人18名、留学生22名

(留学生の出身国: 中国、韓国、インドネシア、フランス、チリ、ジンバブエ、ケニアなど)

表1 日程表

日程	種別	時間	内容
10/26(土)	移動(出発)	13:15	桐生キャンパス(11:50)出発 荒牧キャンパス(13:15) 出発
	休憩	14:00~14:15	道の駅・こもちにて休憩
	宿泊	16:00	草津セミナーハウス到着
	観光体験	16:30~19:00	グループごとに草津温泉を散策・夕食
	グループワーク	19:30~21:30	グループワーク ※翌日の四万観光プランの作成
10/27(日)	食事	7:00~8:00	朝食
	移動	9:30	草津セミナーハウス出発
	観光	11:30	奥四万湖到着
	観光体験	11:30~16:00	グループワーク ※各グループで前日に作成した四万観光モデルツアーに沿って観光
	移動	16:00	四万温泉出発
	休憩	17:00~17:15	道の駅・こもちにて休憩
	移動(到着)	17:50	荒牧キャンパス(17:50)到着 桐生キャンパス(19:20)到着、解散

2.目的

(1) 日本人大学生と留学生からの独自の目線で四万温泉観光モデルをグループごとに作成し、四万の魅力を知ること。

(2) 草津と四万の自然と食を楽しみながら、様々な学生と交流すること。

3-1.観光モデルについて

1日目の草津温泉観光後、セミナーハウスにて自由行動の各グループで翌日の四万温泉街でのプランを考えた。一般社団法人 四万温泉協会が提供する湯散歩マップを参考に、それぞれが訪れたいスポットとルートを決めた。全グループがそれぞれ多様なプランを思考し、自分たちの“行きたい”が詰まった観光モデルとして形作ることが出来た。ある1つのグループの立てたプランでは、「外国人(10~20代)が楽しめるミニツアー」をテーマとし、“柳家遊技場、あすなろ(定食屋)、自転車をレンタルして甌穴、桃太郎の滝、四万清流の湯を巡る”というようなものが一案としてでた。皆、翌日には自身のグループで考え出したプランに沿って実際に行動し、満足のいく2日目にした。



図1 初対面の学生交流の始まり



図2 参考にした湯散歩マップ
<https://nakanojo-kanko.jp/shima/appeal/walkmap/>

3-2.留学生との交流

〈①草津温泉街〉

この温泉街は、有名な湯畑や、草津の湯を楽しめる旅館、そして日本食を十分に知ることに出来る名所である。私達は、1日目の夕方に草津温泉街でグループ別自由行動をした。宿泊施設においては群馬大学の草津セミナーハウスを利用した。留学生は湯畑の景色に驚いた様子で風景を写真に収めつつ、景色に感動していた。一部の班では、夕食に湯畑近くの蕎麦屋を訪れ、また別のグループでは、西の河原露天風呂を満喫していた。箸で麺をすするとい文化では留学生にとっては苦戦ポイントだったが、談笑しながら蕎麦を楽しんだ。露天風呂は、日本人学生にとって慣れ親しまれる一方、留学生にとっては初めは抵抗のあるものであった。しかし、皆で入る湯の温かさにとっても満足した様子だった。



図3 湯畑周辺の散策



図4 草津温泉街での夕食

〈②四万温泉街〉

四万温泉街は、“美人の湯”とされる温泉はもちろん、地元感溢れるお店が沢山並ぶ名所である。そのなかに奥四万湖があり、そこで“四万ブルー”と呼ばれる珍しい色の水面を見ることが出来る。二日目は、そんな奥四万湖の四万川ダムに足を運び、四万温泉街を散策した。あるグループでは、昭和レトロな遊戯店を訪れ、日本人でも普段見ることのないアーケードゲームを体験していた。軽食においては、数ある出店のなかで、味噌まんじゅうを食べたグループが多かった。他にも四万温泉協会がレンタサイクルをし、四万川ダムから数キロ離れた滝を見に行ったグループや、集合時間に追われつつも四万温泉に入浴したグループもあった。全員が新しい経験をしながら、それぞれ英語と日本語を学び合える時間を過ごした。

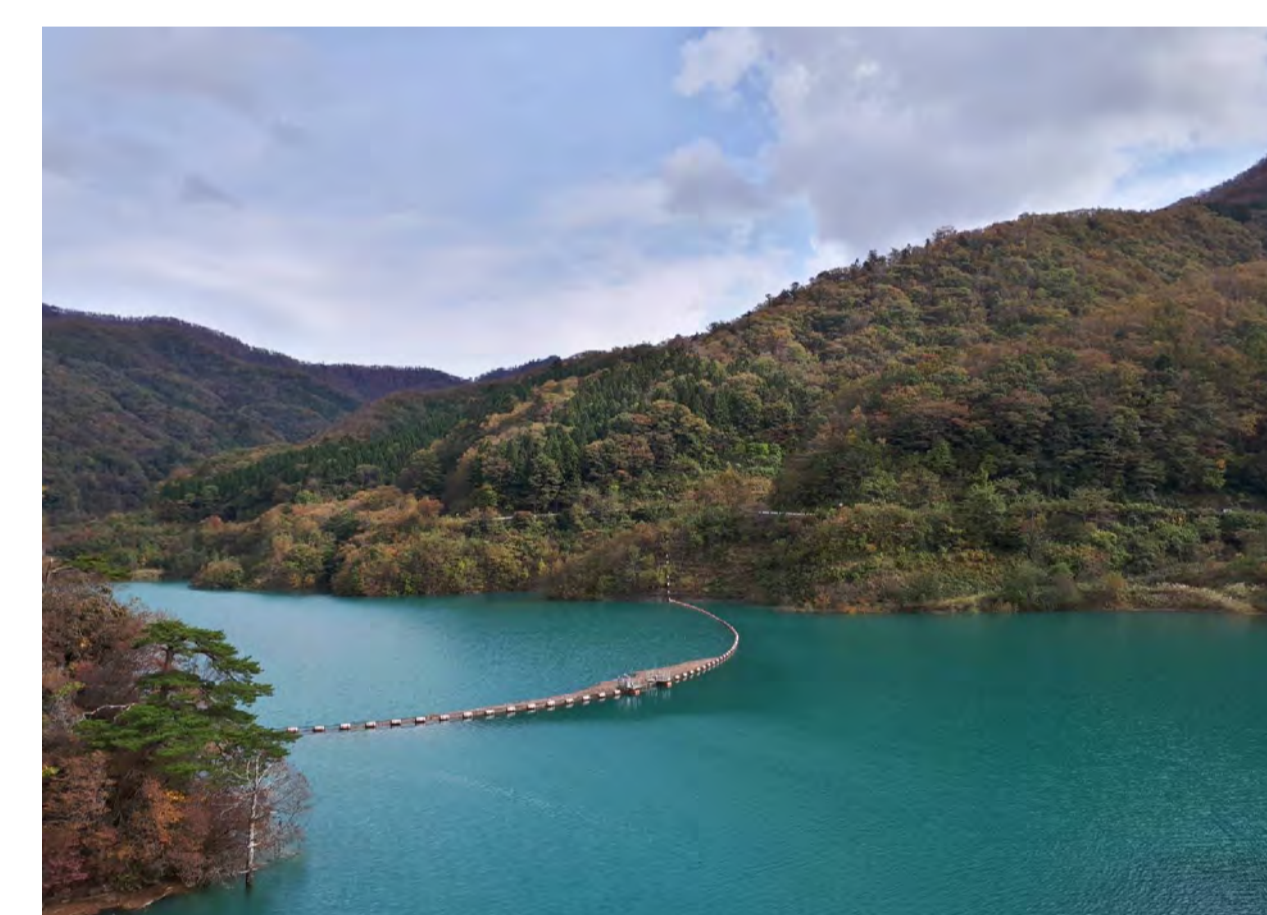


図5 四万川ダムから見下ろす奥四万湖



図6 班別自由行動で群馬特産味噌まんじゅうを購入

4.参加学生の感想

・Thank you a lot for organizing this international camp! I spent a good time in Kusatsu and really had fun with my group.(理工/修士1年・フランス)

・私の地元は群馬です。この企画に参加し、留学生と共に群馬の魅力に改めて触れる事が出来た二日間でした。(医学/保健1年)
 ・インターナショナルキャンプでは、留学生との交流だけでなく、学部や学年を越えた交流があり、新たな交友関係を築くことができた。語学のレベルは様々だが、互いに助け合い、時間を共にする中で、言葉の壁を越えたコミュニケーションができたと思う。(教育1年)

・I would like to thank Gunma University for arranging the international camping. I have spent great time with my international friends.(教育学研究科1年・ジンバブエ)

5.謝辞

大学内の輪を広げ、群馬の観光地を巡り、留学生にとっては初めての日本の文化を体感し、日本人学生にとっては英語で群馬名物を紹介するという非常に新鮮な体験をさせていただきました。日本人学生は留学生だけでなく、異なる学部や学年の学生との交流も楽しむことが出来ました。草津町、中之条町の皆さん、そしてインターナショナルキャンプ2019を企画・運営して下さった群馬大学国際センターの皆様にご挨拶いたします。貴重な体験をありがとうございました。



ウーロンゴン大学短期留学プログラム

群馬大学国際センター企画短期英語研修



実施日：2020年02月22日～2020年03月22日
 実施場所：ウーロンゴン大学（オーストラリア・ニューサウスウェールズ州）
 発表者：医学部 保健学科検査技術科学専攻1年 川崎 花純

1. 概要

春季オーストラリア研修は群馬大学国際センターが企画した短期英語研修プログラムである。ウーロンゴン大学で4週間の英語研修を受け、ホームステイをした。語学力の向上と共にオーストラリアについての知見を深めることができた。今年度は2020年02月22日から2020年03月22日に実施。学部生14人が参加した。

2. 目的

- ・ネイティブと話すことで自身の語学力を向上させる
- ・異なる価値観や生活形態を知り、自分の中で新しい考え方を得る

3. ウーロンゴン大学 (University of Wollongong : UOW)

ニューサウスウェールズ州ウーロンゴンのウーロンゴンキャンパスを拠点とする世界有数の大学である。語学留学の学生を受け入れるためにUOW collegeが併設されている。映画館や美容室、図書館など多様な施設を有する。



図1.2.3 UOWのキャンパス内の様子

4. 活動内容

①英語授業

平日の8:30～12:30にオーストラリア人講師による英語授業を受けた。初日のテストを基に能力別に分けられ、15人前後の少人数制。クラスの9割は日本人で、アジア系や中国系の留学生も数人在籍していた。Speakingを重点的に英語の四技能に対応した授業展開であった。基本的には座学である。クラスによってはクリケットをする、ケーキを作るなどでオーストラリアの文化を楽しむことが出来た。

課外活動がいくつか含まれている。マーケット調査やボタニカルガーデン散策、動物園、サーフィン教室、ブーメランの色付けなどを行った。マーケット調査とボタニカルガーデン散策では、オーストラリアと日本の違いをポイントを教えてもらいながら自分たちで見つけていくことが出来た。ブーメランの授業では、アボリジニの方が講師となり、アボリジニの文化背景や思想なども学ぶことが出来た。サーフィン教室は、ほとんどが初心者で安心して受講した。オーストラリアでは、サーフィンが主流のアウトドアの一つである。日本より波が高い。



図4.5.6.7 授業中の様子など

②群馬大学特別プログラム

- ・STEAM教育
- ・研究室見学(理工学部のみ)
- ・小学校訪問(新型コロナウイルスのため中止に⇒Kiamaを観光した)

UOWのスタッフの指導の下、様々な体験をさせていただいた。分からないことが多かったのですが、それぞれが積極的にスタッフの方に質問をして、実践的な英会話の練習になった。小学校訪問では、日本についてのプレゼンテーションや遊びを企画していた。

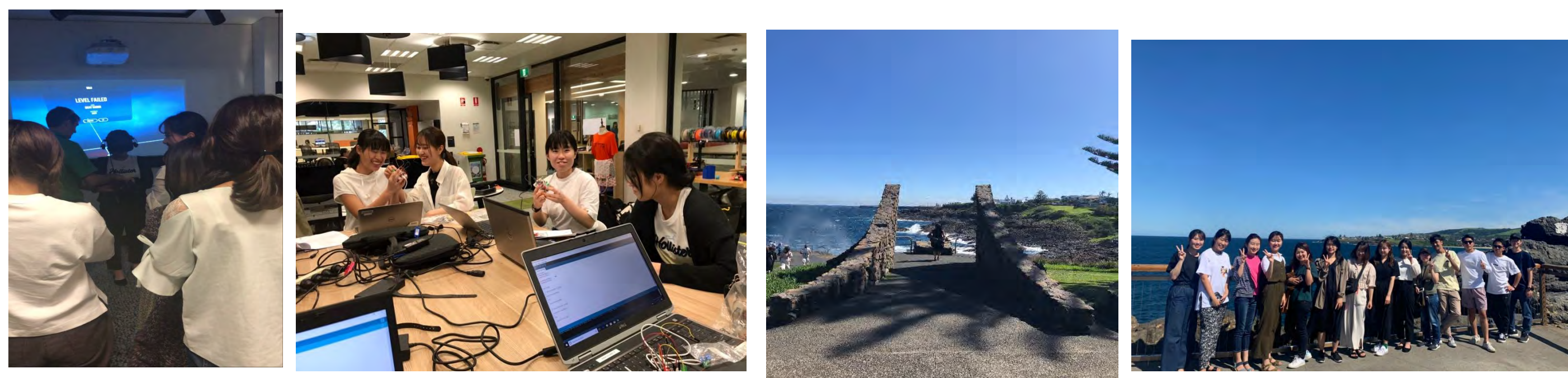


図8.9.10.11 群馬大学特別プログラムの様子

5. 全体の感想

短い期間の中で何度もホストファミリーと話し、街中の人に声をかけられたりすることで少しずつ英語力が成長していくのを感じた。特に全員が何をするかを語るディナーでは、うまく聞き取れず少ししか話せなかった自分が、「Why?」や「Sounds great!!」と返しべらべらと言葉のキャッチボールを投げられるようになった。言葉が理解できなかつたり、伝わらないことがあっても諦めずに会話を続けることが大事であると改めて学ぶことができた。

オーストラリアではたくさんの新しい考え方を得た。QOLの高い生活や個人主義的な考え方は所々見習おうと思った。また、「あなたは大人なんだから、好きにしているのよ」と何度も言われ、日本では学生気分でしたが国が違えば同じ年齢でも扱いが異なることを知った。これから国内外から様々なことを学びたい。

③UOWの学生との交流

UOWでは3月から新学期が始まるため、2月末の1週間は新入生を歓迎するための“O”week(オリエンテーションweek)が開催される。学校主催のイベントが多数あり、現地大学生と交流する機会になる。サークル紹介、pool party、“O” party、屋外での映画鑑賞などがあった。私は、マーシャル諸島共和国から来た留学生と行った“O”partyが一番楽しかった。クラブのような場所で音楽に合わせて踊ったり、歌ったりして、大いに楽しむことが出来た。UOWの学生たちはダンスがとても上手で圧倒されてしまった。

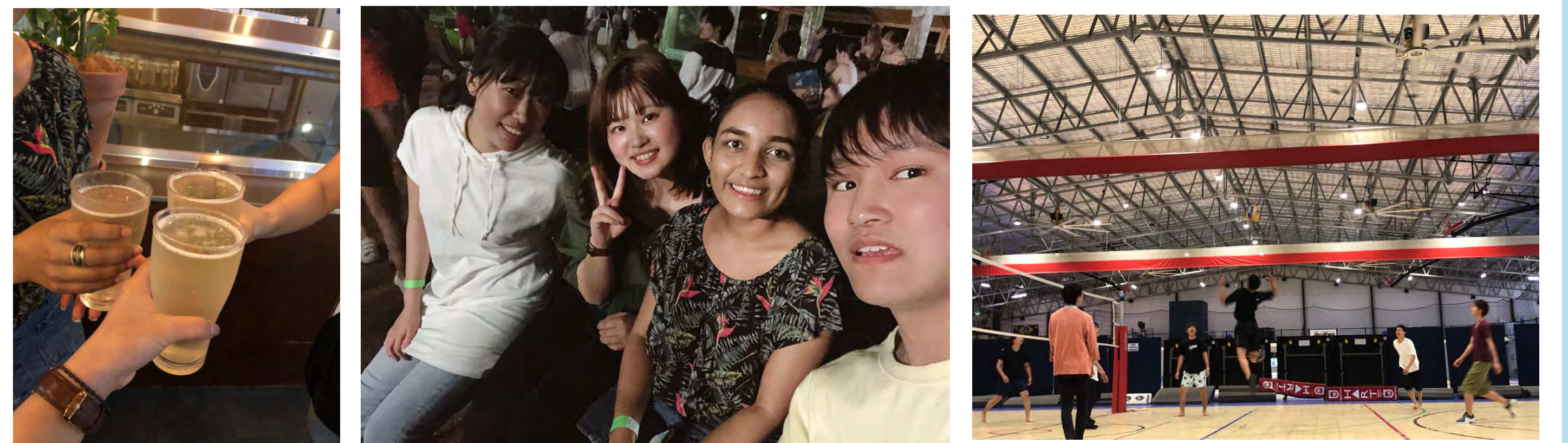


図12.13.14 “O”weekを満喫する様子

放課後には“conversation class”が開催された。UOWの学生や近隣住民の方と英語でお話をして、Wollongongのことやオーストラリアのことを教えてくれた。

週末や放課後は観光をUOWの学生と楽しむことが出来る。UOWからバスで20分程度の場所にショッピングモールがある。また、シドニーまで電車で2時間程度で着くので、週末はシドニー観光をする人が多い。特に日曜日はある一定以上は交通運賃がかからないので、とくにお薦めである。

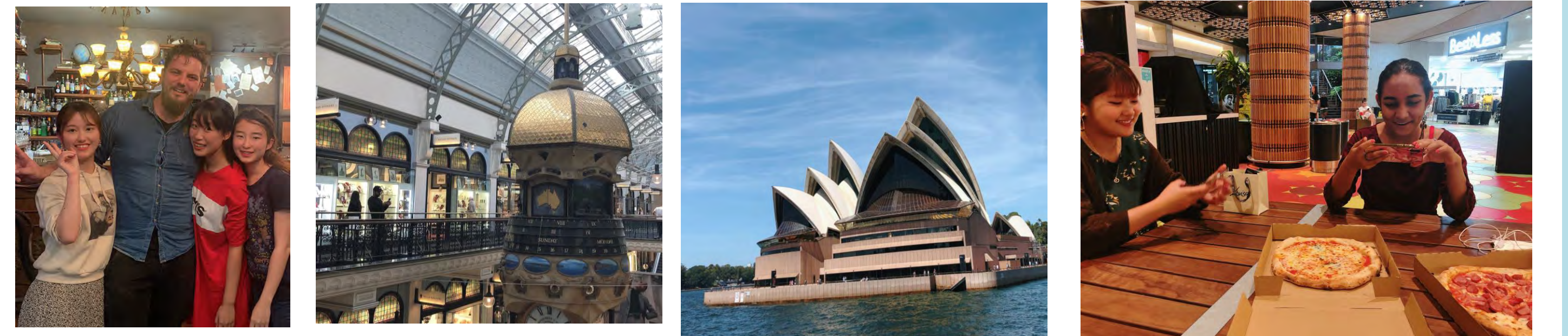


図15.16.17.18 観光を楽しむ様子

④ホームステイ

留学中は現地の家庭でホームステイをする。通学時間は公共交通機関で30分程度である。朝・夜の食事が提供され、昼食も有料になるが提供してもらえる。家族構成は様々で、異なる文化を楽しむことが出来る。私の家庭では、カンガルー肉を食べさせてくれたり、公園や散歩に一緒に行った。他の家では、頻りにパーティをする家や毎週金曜日は映画を一緒に家、クリケットを夜通し見る家などあり、それぞれが楽しく生活していた。ホストファミリーと過ごす時間はとても貴重で、オーストラリアについてよく知る機会になった。始めは英語がほとんど聞き取れなくても、会話の中で上達し、自身のspeaking力の自信につながる。

1か月という短い期間ではあったが、私は今現在も連絡を取り合っているほどの絆を作り上げることが出来た。



図19.20.21 ホームステイの様子

3月2日は「クリーン・アップ・オーストラリア・デー」と呼ばれる日でオーストラリア各地でボランティアによるゴミ拾いが行われた。私は、友人のホストマザーに誘われて参加した。場所はNorth Wollongong Beachで、多くの人が参加していた。浜辺のゴミ拾い組と、ダイビングで海底のゴミ拾い組に分かれた。私たちは、浜辺で多くのゴミを拾った。特にたばこの吸い殻が多かった。一方、海底からは自転車やタイヤ、コーンなどが大量に出てきた。



図22.23.24 ボランティア参加の様子